

Fukushima Will...部門

● はじめに～Fukushima Will...発足の経緯

2011年3月11日、東日本大震災発生。

あの日医大生も様々な場所で被災しました。

被災はしたものの、幸い医大生に人的被害はなく、日々刻々と変わる状況、様々な想いが交錯する中で、何かしたい、今自分たちにできることはないのか、そんな思いで自ら動き始めた医大生が数多くいました。当時は他の医大生が何をしているかなど知る術はほとんどなく、医大生がどのような活動をしていたかわかるようになったのは学校が再開してからでした。

もう二度と、私たちが福島で震災を経験することはないかもしれませんが、しかし、別の土地で再び震災に遭うこともあります。数十年後、再び震災が起こる可能性もあります。そんなとき、今回の震災で医大生がどのようなことをしていたのか記録として残しておけば、未来の医大生の役に立つのではないか。実際に活動に参加できなかった人とも報告をしあうことで、経験の共有ができるのではないか。こんな活動ができたと情報を発信することで、他県の医大生の力になれるのではないか。そしてそれが福島の復興につながるのではないか。

そういった思いから、情報の記録、共有、発信を目的に、震災当時ボランティア活動していた5団体の代表を核に作られた団体が Fukushima Will...でした。

● 活動内容

当初は、福島県内への情報発信を目的としていたため、当時の様子や活動に至った経緯、活動内容、そこから得たことなどを話す医大生向けの講演会、そして福島県向けの講演会を開催していました。そのような県内への活動をしているうちに、県外の大学から当時の話をしたいと依頼を受けることが多くなり、図らずも県外へ情報発信ができるようになりました。その県外での講演会の中で他の医大生と交流を重ねるうちに、当時の状況を報告するだけの団体‘Fukushima Will...’ではなく、今回の経験を生かし、震災時にあればよかったと思う知識や技能、被ばく医療や災害医療を学び、さらには他大との交流の橋渡しのできるような団体‘Fukushima Will...’の必要性を強く感じました。また、段々と震災時にボランティアを経験した人卒業していく中で、みんなの中で震災を風化させずに考える機会を数年に一度でも作る必要があるという思いから、今回部門としての Fukushima Will...を立ち上げることにしました。

● 部門内容

医大生として震災を経験した人が段々と卒業してしまっているのですが、まずは医大生が震災時にどのような活動をしていたのかを外部の人だけでなく、今の医大生にも知ってもらえるような内容にしたいと思っています。さらにそれをベースに、災害医療とはどのようなものか、被ばく医療とは何なのかを学び、今回のボランティアを通じて感じた医大生に足りない技能を学べるような内容を計画中です。

今回の部門での学びが、再び震災に遭遇したときに、自ら活動する原動力と少しでもなってくれればと思っています。



**是非みなさん気軽にお越しください！
部門員一同心よりお待ちしております！！**